

# 重厚観客を魅了

全日本男声合唱フェス

新しく誕生した「お父さんコーラス」の祭典、第1回全日本男声合唱フェスティバル（全日本合唱連盟、朝日新聞社主催）は最終日の28日、宮崎市のメディキット県民文化

センター（県立芸術劇場）で一般に公開された。全国から集まつた15団体が自慢の歌声を披露したほか、三つのグループに分かれて合同合唱を熱唱した。会場には出演者を含

め1500人以上が入場し、重厚なコーラスに聴き入った。

東京都の「ENSEMBLE E PLEASE」は宮崎

県の民謡「稗搗節」などを披露。指揮をした作曲家の松下

耕さん（48）は「楽しかった。ホールは小人数でもいいし、アカペラにも合っている。ご

当地の歌があり、それによって人がつながる点が合唱の良さ」と話した。

2年後、第2回の開催地となる福島県から参加した合唱団「花音」の小林悟代表（42）は「気持ちよく歌えた。2年後の開催地としてプレッシャーはあるが、思い出になるようなものにしたい」と話し、「こういう風に集まり、男声合唱が学生などにつながる下地ができれば」と期待した。

地元から参加した「フルトン男声合唱団」で指揮をした甲斐勝利さん（65）は「（観客が）一生懸命聴いてくれているのが、背中でわかった。出演団体も若いメンバーが思つた以上において、非常にうれしかった」とほっとした表情だった。

同じく地元から参加した「スター・ウインド」の団長で、宮崎市役所に勤務する倉田哲也さん（41）は「こんな大きなステージは初めてだったが、宮崎から発信できてよかったです。勉強になり、ラッキーでした」と喜んだ。



巨大なパイプオルガンを使い、グノー作曲の「第2ミサ」を4団体が合同で合唱した  
宮崎市のメディキット県民文化センター